

第1回 災害WG(横浜巡検)開催報告

開催日時：平成15年10月3日、12:30～17:00

場所：横浜市南区～磯子区

参加者：15名

青木正雄、岩佐直人、稲垣秀輝、上野将司、大野博之、岡田憲治、釜井俊孝、
熊倉聡、小嶋茂人、後藤聡、中野祐司、中濃耕司、谷川正志、吉田洋子、
(委員以外1名)

巡検箇所：以下の5箇所を地形図に概略位置を示す。

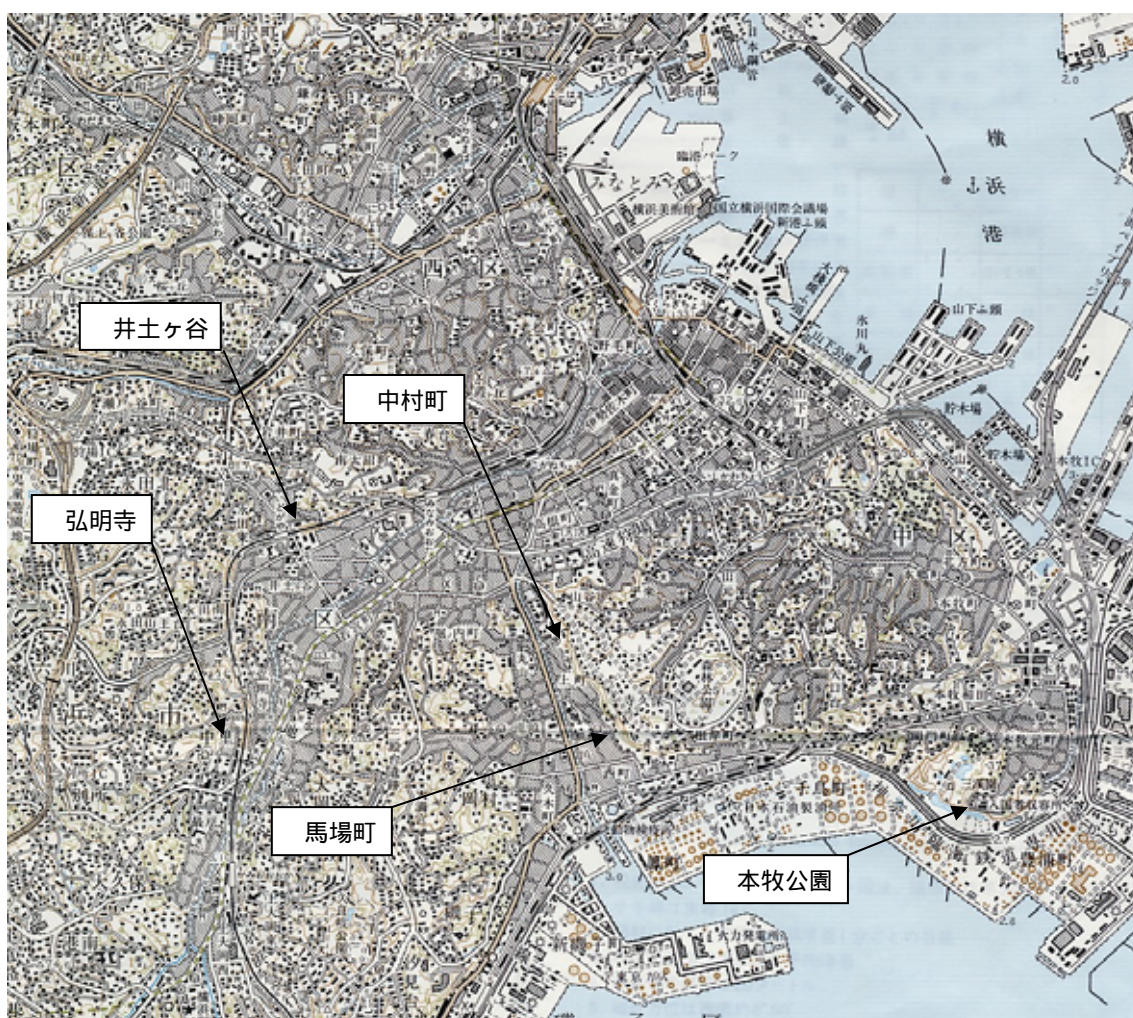
井土ヶ谷：京急「井土ヶ谷駅」北東、急傾斜地の住宅と地下マンション

弘明寺：京急「弘明寺駅」南西、急崖とマンション

中村町：地下鉄「吉野町駅」南南東、1999年2月崖崩れ被災のマンション

馬場町：地点～JR根岸駅間、急崖を造成した宅地

本牧市民公園：JR「根岸駅」東方、海食崖と地質の大露頭



意見と課題（ ）の要約

- 1) 地下マンションは斜面の土圧をどのように考慮して設計されているのか。
建築サイドの設計法を調べる必要がある。
- 2) 急崖を切り土で追いで宅地化しているが、急勾配のり面の対策に不安がある。急傾斜地事業との関係がよくわからない。
行政側にヒアリングを行うか委員会に招待して話題提供してもらう。
- 3) 植生が繁茂して安定化している崖の傾斜は 45° 程度である。本牧市民公園の崖は地質がよく観察できるが、急傾斜であり不安定な崖といえる。

巡検箇所の一部を写真で紹介

巡検地 の 1999 年 2 月崖崩れによる被災マンション

背後の不安定な吹き付け斜面は切土整形され、のり枠等で保護されている。右は被災直後の写真。



巡検地 被災マンションの北側も安定化対策が施工された。右写真はマンション被災当時の状況。



巡検地 から JR 根岸駅にかけての急崖斜面。傾斜は $45 \sim 50^\circ$ 程度で植生が繁茂し、安定化が進みつつある。かつては巡検地 のような海食崖であった。



巡検地 本牧市民公園の急崖。明治時代は池の部分海であり、この崖は浸食を受けていた海食崖であった。不安定な崖で、巡検地 のように今後崩壊する恐れがある。地質は下位から上総層群、屏風ヶ浦層、下末吉層が堆積。

横浜市内の多くの崖は縄文時代以降に形成された海食崖である。

